

桜田門から麻布方面へ

2010年6月

桜田門 ⇒ 愛宕山 ⇒ スウェーデン大使館 ⇒ ホテル大倉
⇒ 我善坊坂と我善坊谷 ⇒ 狸穴坂・鼠坂 ⇒ 麻布十番
⇒ 三田小山町再開発予定地
⇒ 三井クラブ・オーストラリア大使館

「現代」「明治末」「江戸末期」の地図を重ね、歴史をたどりながらの散歩。

3枚ずつ2組（計6枚）の地図をめくり確認しながら歩きましょう。

Q まずは質問

- 0) 桜田門外の変で、井伊直弼は水戸藩浪士に襲撃されたが、井伊直弼はなぜ桜田門から登城したのだろうか。
- 1) 霞ヶ関官庁街は、もとはどこの大名家の屋敷だったのだろうか。
- 2) 現在の日比谷公園の一角には江戸時代に「桜田御用屋敷」があったが、これはいったいどんな屋敷なのか。
- 3) 現在の六本木一丁目や麻布台一丁目あたりには、江戸時代に「与力同心大縄地」が点在している（紫色）。「大縄地」とは？この辺りの大縄地の与力同心の職業は？
- 4) 江戸時代の都市・江戸の人口は、武士が半分を占めていたといわれている。なぜこんなに武士が多かったのだろうか。
- 5) この武士が住む空間、それに寺社が江戸の土地が圧倒的部分を占めていた。では町人はどんなところに住んでいたのだろうか。

☆ 江戸末期の地図の色区分

- 白色： 大名屋敷、旗本の上級武士の屋敷
紫色： 中・下級武士の組屋敷、大縄地
グレイ： 町人町
ピンク： 寺社

大名屋敷

上屋敷

藩主とその家族の居所。道を隔てた反対側に「向屋敷」をもつこともあった（地図A2の安芸広島藩）。登城の便から江戸城の周辺に配置され藩役所の機能も持った。

下屋敷

隠居所または世継ぎの居所。また上屋敷の修理や被災の際の避難所。側衆・大番頭・留守居役のような幹部にも一代を限り2ヶ所に与えられた。多くは郊外にあり、別荘や庭園として使われた。水戸徳川藩の場合、上屋敷は水道橋後楽園、下屋敷は向ヶ丘（現東大農学部）

中屋敷

大藩が持ち、参勤交代の家臣の宿舎などに当てられた。官庁街である霞ヶ関は、江戸時代には、安芸広島藩（浅野）42万石、黒田の筑前福岡藩（黒田）52万石、米沢藩（上杉）18万石、その他小藩の上屋敷であった。現在の日比谷公園は、長州藩37万石、肥前鍋島藩36万石とその他の小藩の屋敷であった。

御用屋敷

御庭番の屋敷であり、桜田門外などに複数の御用屋敷が確認できる。御庭番とは八代将軍徳川吉宗が創設した公儀隠密の事。吉宗は御三家の紀伊家から入り、生まれながらの将軍ではなかったため、それまでの隠密を信用出来ず、和歌山から連れてきた藪田助八を棟梁分として任命し、17家を御庭番とした。通常は桜田御用屋敷・虎ノ門外御用屋敷・雉子橋門内御用屋敷・清水門外御用屋敷に分かれて住んでいた。(地図 A 2)

大縄地

中・下級武士の宅地は職務上、同じ組に属する者がまとまって屋敷地を与えられたが、これは土地を一括することから大縄地・大縄屋敷といわれた。官舎のようなものである。低地や谷合のあまり条件の良くない場所があてがわされていた。収入が少なく副収入を得るために、傘の修理などの手内職をするものがあり、また敷地で植木や花を作ったり、敷地の一部を町人や医者などの知識層に貸すことで収入を得た。貸し出された屋敷地が岡場所になったところもあるという。(地図 B 2)。

武家屋敷

旗本： 旗本は徳川氏の三河以来の家臣から成る。武家以外にも儒者、医師、碁所、歌学方など技芸をもって召し出された者もあった。旗本の人数は、享保7年（1722）の調べでは5205人、そのうち100石～500石以下の者が約60%を占めていた。武家諸法度によって統制され、老中・若年寄の支配のもとに番方、役方の諸役職につくが、役職には限りがあったため非役の者も多くいた。

御家人

与力・同心などを務めた者の子孫。享保7年（1722）に御家人の人数は17390人で、禄高最高は240石で総じて貧乏御家人が多くいた。

御家人の内職

麻布の組屋敷で草花

代々木・千駄ヶ谷の組屋敷でこおろぎ・鈴虫などの季節の虫類
巣鴨・大久保の組屋敷では植木

下谷の金魚

青山百人町の傘張り

根来百人町の提灯張り

巣鴨鷹匠町・御駕籠町の羽根作り

趣味と実益を兼ねた内職をして町人に売り、収入の助けとした。

地図 A3 でみつけることができる明治時代の邸宅

歩く道筋には、明治・大正期の華族、実業家などの屋敷が多くあった。

地図で確認してみよう。

- 小村寿太郎（日露戦争後のポーツマス条約時の外務大臣）
- 岩倉具視（子）
- 大倉喜八郎（武器商人から財閥を立ち上げた実業化。
現在のホテル・オオクラの場所）
- 板垣退助
- 後藤新平
- 松形正義
- 北里柴三郎

その他、島津、蜂須賀、鍋島、真田、織田など旧大名家

我善坊坂と我善坊谷

六本木一丁目から麻布台一丁目に下る坂を「我善坊坂」といい、坂を下りた谷あいを「我善坊谷」といった（地図 B1 の黄色に塗られたところ）。

明治末の地図 B3 には我善坊町と書かれている。

江戸末期の地図では、ここは「御先手与力同心大縄地」となっていて、組屋敷があったところである（地図 B2）。このあたりの大縄地には、火付盗賊改めの与力同心の組み屋敷があり、池波正太郎の「鬼平犯科帳」にも登場する。御先手与力同心大縄地があった我善坊谷（麻布台一丁目）の一帯は、戦後は中流中産層の住宅地区であったが、住宅の多くが森ビルによって地上げされ、長期に放置されたままになっている。

まさにゴーストタウンである。



麻布台のゴーストタウン化した町



各家には森ビル管理地の看板

狸穴（まみあな）坂

ロシア大使館横の坂が狸穴坂で、麻布十番方面に下りていく。

狸をなぜ「まみ」と読むのかについては定説はなさそう。

谷間に「魔魅がでる」とのうわさがあったからとの説があるということだが、定説はない。いずれにしろ狸がでるようなところだったのだろう。

平岩弓枝の「御宿かわせみ」では、主人公東吾の通う道場がこの狸穴にあった。

江戸城の北も南も坂が多く、それぞれに名前がついている。

港区では、坂のとば口に柱を立て、坂の名前をその由来とともに記している。

三組坂、鼠坂、植木坂、榎坂、雁木坂、落合坂など。

三田小山町

マンション街が続く一角、三田小山町（現在の三田三丁目の西部）には、「ここが三田？」と思わせる、「三丁目の夕日」のような懐かしい匂いのする街並みが残っている。

しかし、この一帯にも開発の波は押し寄せている（地図 B1 の黄色の部分）。

三田小山町地区市街地再開発組合の設立認可について

平成 17 年 11 月 8 日 都市整備局

東京都は、都市再開発法第 11 条第 1 項の規定に基づき、
三田小山町地区市街地再開発組合の設立を下記のとおり
認可しますのでお知らせします。

1 認可組合（施行者）の名称及び所在地

三田小山町地区市街地再開発組合 港区麻布十番四丁目 1 番 7 号

2 事業の名称 三田小山町地区第一種市街地再開発事業

3 施行区域 東京都 港区三田一丁目各地内

4 認可の効果 組合設立認可により法人格を得て市街地 再開発事業の施行者となり事業に着手する。

今後の予定

権利変換計画認可 平成 18 年 3 月予定

工事着工 平成 18 年 10 月予定

建築竣工 平成 21 年 3 月末予定

5 事業効果

本地区は震災・戦災も免れ、古くから良好なコミュニティを
培ってきた地区である。都営地下鉄大江戸線、東京メトロ南北線の
駅開業に伴い大幅に改善された立地条件を活かし、コミュニティの
継承と地域根ざした事務所・店舗・工場との共存を目指す。
土地の合理的かつ健全な高度利用と都市機能の更新を進め、
安全性と利便性の高い、快適で魅力ある複合住宅市街地を形成する
ことを目的として事業を行うものである。

6 認可日 平成 17 年 11 月 8 日

7 地区の概要 (1) 地区面積 約 1.1 ヘクタール

(2) 計画概要

規模 延床面積 約 65,200 平方メートル

地上 36 階 地下 1 階 高さ約 128.5 メートル

用途 住宅（約 510 戸）・事務所・店舗・工場・駐車場等

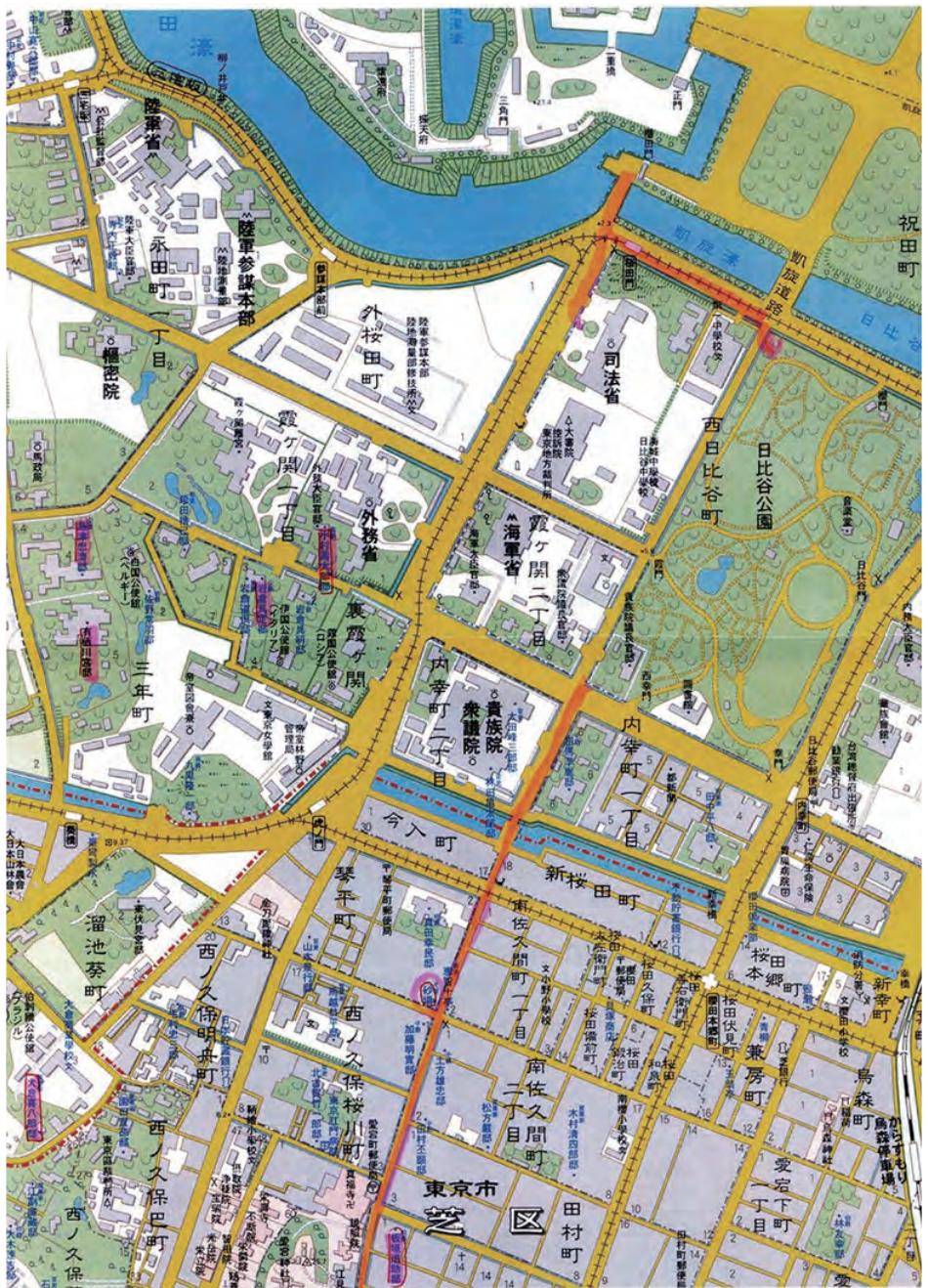
総事業費 約 245 億円



A 1



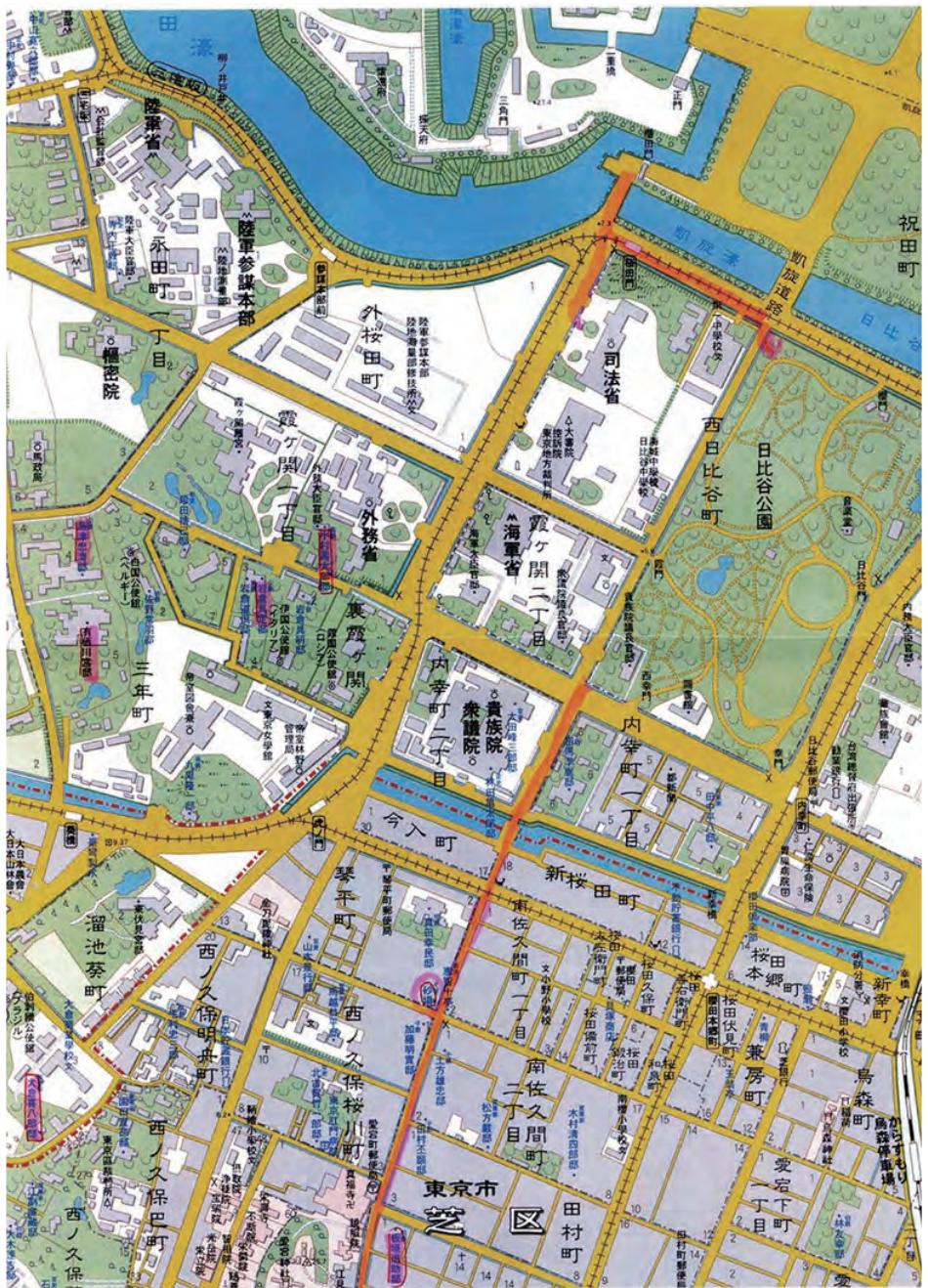
A2



A3



B1



A3



B1

